

## 平成30年度 事業報告

### 1、事業の概要

平成31年3月内閣府発表の月例経済報告によると「景気は、このところ一部に弱さがみられるが、穏やかに回復している。」となっているが、「先行きについては、当面一部に弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、穏やかな回復が続くことが期待される。」としている。北海道における経済動向は、昨年9月6日の胆振東部地震の影響もあり、観光と住宅建設については、「減少からおおむね横ばい」、公共工事と水産物水揚げ量については、「前年を下回っている」という状況であり、江別市シルバー人材センターを取り巻く経営環境は、先行きの不透明な状況であります。

一方、雇用情勢は着実に改善していて、完全失業率は2.9%で全国平均を上回るものの有効求人倍率は上昇しており、企業の人手不足が顕現化しています。このように人手確保が大変厳しいことを背景に、30年度の当センターの派遣就業は、前年度を「253万円」上回る「6,474万円」の契約額となりました。一方、請負就業は、前年度を「88万円」下回る「2億2,059万円」となりました。請負と派遣を合わせた総契約額では、前年度の「2億8,369万円」を0.58%上回る「2億8,534万円」となりました。

事業目標の達成状況については、会員数では前年度の「722人」から「697人」と「25人」の減少となり、目標値である「760人」には届かなかったものの減少傾向に歯止めがかかりつつあります。また、請負と派遣を合わせた契約金額も目標値「3億1,529万円」を下回る「2億8,534万円」となったものの前年度を「154万円」上回りました。一方で、派遣就業延人日については、目標値の「12,001人日」を「115人日」上回る「1万2,116人日」を達成することができました。

以下、平成30年度の事業実施状況の詳細について、報告します。

## 2、事業実施状況

### (1) 会員数の増強

全国シルバー人材センター事業協会が示した会員100万人達成計画に基づく北海道シルバー人材センター連合会の江別市会員目標760人を目指しましたが、697人に留まりました。一方、新たな社会奉仕会員制度の導入により退会する会員が減少するなど一定の成果が見られました。

年 度	目標数	会 員 数
平成25年度	800人	640人
平成26年度	750人	670人
平成27年度	740人	749人
平成28年度	890人	801人
平成29年度	850人	722人
平成30年度	760人	697人

- ① 公共施設等にポスターの掲示や街頭啓発を行い、センター事業の普及啓発と新入会員の入会促進に努めました。
- ② 子育て、介護、家事援助サービスなど女性の就業ニーズに応えるため女性限定入会説明会を3回行い、5名の女性会員が入会しました。
- ③ 毎月開催する入会説明会に加えて、江別、野幌、大麻地区等で出前説明会を10回開催しました。出前説明会では30名の新規会員が入会しました。
- ④ 新たな社会奉仕会員制度の導入により退会会員の抑制に努めました。

### (2) 適正就業の推進

一般企業等による受託事業については、国の「適正就業ガイドライン」に基づきその内容を精査し、請負契約が適当でないものについては、シルバー派遣事業への切り替えを進めました。

## (受託事業)

平成 31 年 3 月末現在

区 分	受注件数	前年比	契約金額 (円)	前年比 (円)
公 共 事 業	103	5	36,809,555	4,188,768
一 般 企 業 等	827	80	119,525,583	▲1,681,568
個 人 ・ 家 庭	5,384	▲267	61,698,435	▲3,325,663
独 自 事 業	1	▲1	2,566,113	▲65,431
計	6,315	▲183	220,599,686	▲883,894

## (派遣事業)

区 分	受注件数	前年比	契約金額 (円)	前年比 (円)
公共事業	2	▲1	3,958,745	▲2,805,045
一般企業等	48	0	60,783,224	5,337,794
計	50	▲1	64,741,969	2,532,749

## (事業契約実績)

年度別	30 年度	29 年度	28 年度	27 年度
受託事業	22,060 万円	22,148 万円	21,742 万円	22,187 万円
派遣事業	6,474 万円	6,221 万円	7,161 万円	5,000 万円
合 計	28,534 万円	28,369 万円	28,903 万円	27,187 万円

- ① 公益社団法人として法令を遵守し、高齢者に適した就業を行うことは、社会的な責任であり、その役割を果たしました。
- ② 公共施設等の就業は、会員の交代又はローテーション就業により公平な就業機会の確保に努めました。
- ③ センター内に就業情報板を設置するなど新たな就業先を会員へ紹介しました。

## (3) 派遣事業の拡大

企業の人手不足が拡大するなか、適正就業を推進することにより、派遣事業の実績は、延就業人数で平成 30 年度目標値の 12,001 人を 115 人日上回り、契約金額も前

年度の 6,221 万円より 263 万円増加の 6,474 万円となり、今後も拡大が期待されます。

(派遣就業延人数実績)

年 度	派遣人数
平成 24 年度	4, 199 人日
平成 25 年度	6, 218 人日
平成 26 年度	7, 036 人日
平成 27 年度	10, 302 人日
平成 28 年度	13, 212 人日
平成 29 年度	12, 080 人日
平成 30 年度	12, 116 人日

(派遣事業実績)

年度別	30 年度	29 年度	28 年度	27 年度
受注件数	50 件	51 件	56 件	44 件
契約金額	6,474 万円	6,221 万円	7,161 万円	5,000 万円
就業延人員	12,116 人日	12,080 人日	13,212 人日	10,302 人日

- ① 就業開拓員による市内民間企業や行政等への訪問によって、新たな就業先の確保に努めました。
- ② 地域の労働力不足を補うために、シルバー派遣事業をより一層拡大し、多様な就業機会を確保するための新規の就業開拓に努めました。
- ③ 「元気プラザ s」については、派遣事業の拠点として活用しました。

(4) 財政健全化に向けた経営基盤の強化・改善

国の補助金の削減により厳しい財政運営を続けてきましたが、平成 27 年度から始まった高齢者サポート事業補助金により安定的な運営資金が確保されました。

(補助金実績)

年度別	30年度	29年度	28年度	27年度
連合交付金	23,739千円	23,541千円	23,381千円	16,780千円
市補助金	23,739千円	23,541千円	23,381千円	16,780千円
合計	47,478千円	47,082千円	46,762千円	33,560千円

- ① 就業の拡大により事務費を確保しました。
- ② 派遣事業の拡大により手数料を確保しました。
- ③ センター事業の趣旨に賛同する賛助会員の確保に努めました。
- ④ 最低賃金の上昇に対応する配分金の見直しを行いました。
- ⑤ 独自事業の「堆肥・腐葉土・エコ石鹼」作りは、採算性や作業工程の効率化に努めました。
- ⑥ 諸経費の節減に努めました。

## (5) 安全就業と事故防止

5件の損害賠償事故が発生しましたが、傷害事故については0件を達成することができました。今後は、自らが加害者とならないための取組みや健康保持への取組みなどが求められています。安全衛生委員会では、安全就業の徹底に向け、以下の5項目の対策を行いました。

- ① 安全パトロールを強化し、安全意識の啓蒙と事故防止に努めました。
- ② 安全標語の募集、安全宣言大会参加者を拡大し、常に安全旗を掲揚するなど、安全と事故防止のための諸行事への参加を促しました。

**安全標語最優秀賞 「安全は、基本動作の 繰り返し」**

- ③ 安全保護具の着用と機械器具の点検整備を強化し、事故防止に努めました。
- ④ 請負会員には健康診断の受診を奨励し、派遣会員には健康診断を実施しました。また、保健師による健康相談事業も実施しました。
- ⑤ 「団体傷害保険・総合賠償責任保険」に継続加入しました。

## 平成 30 年度事故概況

(傷害事故 0 件)

(前年度 3 件)

(賠償事故 5 件)

(前年度 6 件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
女	73	屋内清掃	折り畳みベッドの移動をした際にベッドの足が床に接触し傷をつけた。
男	86	剪定	枝払いをする際にインターネットの線に気づかず作業した為、切った枝が線に引っかかり切断した。
男	77	機械草刈り	機械草刈り作業中の飛び石により駐車していた車の側面に傷をつけた。
男	69	機械草刈り	学校敷地内の草刈り作業中の飛び石により校舎の窓ガラスを破損させた。
男	75	機械草刈り	学校敷地内の草刈り作業中の飛び石により校舎の窓ガラスを破損させた。

### (6) 公益社団法人としての組織体制の強化

派遣事業の拡大に向けて臨時職員を採用したほか、会員による事務補助員も就業させ、組織体制の強化に努めました。

年度別	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度
正職員数	4 人	4 人	4 人	4 人
臨時職員数	5 人	5 人	5 人	4 人
業務補助員数	1 人	1 人	2 人	2 人

- ① 公益社団法人として、健全な運営や透明性の確保、地域社会への貢献、法令順守など認定法に基づく事業運営を行いました。
- ② 理事会の活性化を図るため、道央ブロック役員研修会に参加しました。
- ③ O A 機器の整備により効率化に努め、事務局体制の強化を検討しました。

## (7) 技術・接遇等の向上

剪定や冬囲いなどの技能講習を行ったほか、市民向け刃物研ぎ講習会を行いました。

講習会名	日時	会場	参加人数
剪定講習会	7月4・5日	山岸宅	15人
冬囲い講習会	10月9・10日	山岸宅	17人
刃物研ぎ講習会	12月3日	センター研修室	24人
安全衛生会員研修会	1月23日	セレモニ-ホールはやし	63人
福祉家事援助清掃講習会	2月14日	センター研修室	20人
公共施設管理接遇研修会	3月6日	センター研修室	8人

## (8) ボランティア活動の推進

超高齢化社会に向けて地域の高齢者を支援するゴミ出しや灯油宅配の事業をワ  
ンコインでの有償ボランティアとして継続しました。

## (9) 広報活動の強化

- ① 会員の増強や受注拡大のために、新聞広告やチラシ配布を継続するほか、市役所の封筒への広告掲載を行いました。
- ② 会員の増強や受注の拡大に向けて、市内スーパー等で街頭啓発活動に取り組みました。

## (10) 関係機関団体等との協力連携

江別市、北海道労働局、全国シルバー人材センター事業協会、北海道シルバー人材センター連合会、道内外のシルバー人材センター、特に道央圏のシルバー人材センターと連携し、事業の円滑な運営に努めました。